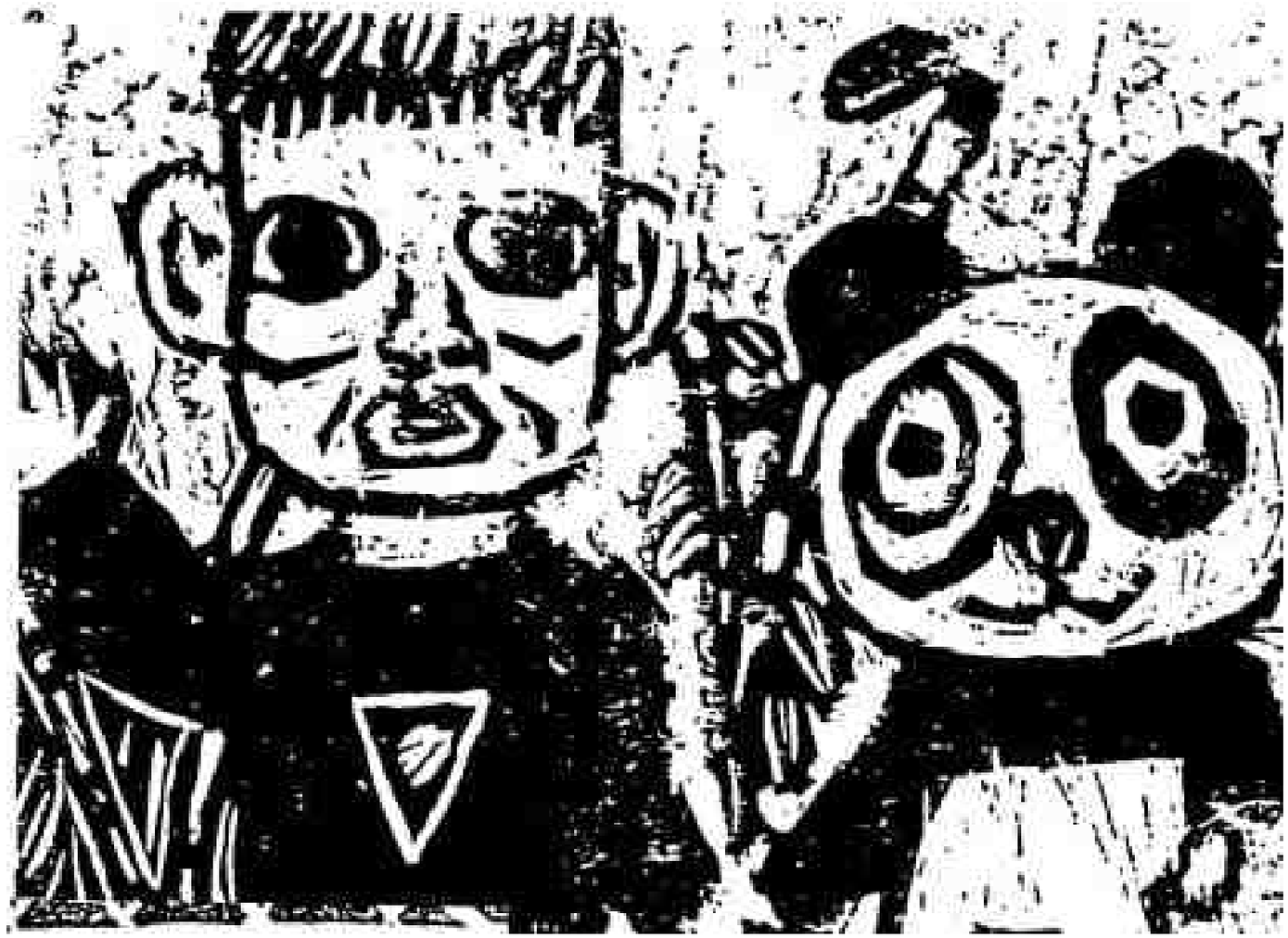
# 木下川の子ども



1 9 5 7 年 度

～

2 0 0 2 年 度

3年

# 一　子いぬ

九五七（昭和３２）年度

十月六日に子いぬが生まれました。その犬に西河君と二人で、名犬りんちんちんとなまえをつけました。黒と茶とまじりで、まるまるふとって子ぐまみたいです。おっぱいをのむとき、りょう手でおっぱいをぐんぐんおして口でひっぱってのんでいます。それから二しゅうかんほどたちました。ビニール工場の伊藤さんという人がきて、子犬をもらっていきました。

二、三日たってから、くつの中にうんこをしたので、かえしにきました。それから毎日二人で、りんちんちんとあそんでいました。「りんちん」とよぶとよろこびながら、しっぽをまるめてかけてきます。テレビでやった名犬のようにりこうだといいなあと思います。

それからまた二しゅうかんほどたって、またほかの人がくれときたので、あげました。今ごろりんちんはどうしているかと、それ

ばかり考えています。

## 一　九五八（昭和３３）年度

### いなごとり

三年一組だけで、いなごとりにいきました。たかさごについてから、いなごのいるところをさがした。いなごとりをはじめたけれどいなごはいなかった。いなごをさがしているうちに、かえるが、とびはねた。そのかえるは大きかった。ぼくは「あっ、かえるだ、ずいぶん大きいかえるだ」といった。みんながよって来て、かえるをおっていった。かえるは、あわてて、田んぼの中にはいっていった。ぼくは、ほかのところをさがした。けれどもいなごは、いなかった。

おべんとうを食べた。小川のへんをさがしたら、いなごはたくさんいた。大河内くんが、おおとをとった。そしてにがしてしまった。ぼくはおおとをとったけれど小川の中にかた

あしがはまった。そして「ぼくがとったんだからくれよ。」といった。「いやだよ。」といったけども、みんなが「あげろよ」といった。

「うん」と、大河内くんがいった。そしてぼくははな紙でふいた。そして　小川のへんえ行って、またいなごをとりはじめた。いなごはたくさんいるので、どれからとっていいかわからない。でもぼくはむちゅうでとった。ふくろの中は、いなごのすみたいにたくさんいる。ぼくは、もっともっととった。しばらくとっているうちに先生のふえがなった。みんなはあつまってかえるしたくをした。そして先生が、せんとうになってあるきはじめた。ぼくのふくろの中にいるいなごは、すこしのすきまからでた。ぼくはそのいなごをつかまえた。そして電車にのっていった。あらかわえきにかえりつきました。

一九五九（昭和３４）年度

ローラースケート

ぼくはお正月におお年玉を五百円もらいました。お年玉でローラーを買おうと思いました。おとうさんにたのんだら「いい。」といいました。

「今、したくをしてくるから待っていなさい。」といいました。ぼくはせいぼうあんちゃんをよんできました。あんちゃんも行くといいました。

じどう車にのってローラーを買いに行きました。でもローラーやさんがみつからないのでがっかりしました。そして、やっとみつかりましたが、ぜんぜん小さくてはけません。大きいので九百五十円のがありました。でもお金がたりません。それでおとうさんに借りました。

ぼくはうれしくてたまりません。うちにかえってやろうと思いましたがもう夜です。お

とうさんは「やってもいいよ。」といいました。

ぼくは大きくなったらローラースケートのせんしゅになろうと思います。がなれそうもありません。せいが小ちゃいからです。

## 一九六〇（昭和３５）年度

あいけん「リー」

ぼくは外ががやがやしているので、目をさましたけれど、またねてしまいました。二十分ぐらいして、うるさいので、おねえさんと下へおりて行きました。下には、けいじさんやけいさつの人がいっぱいいました。一時三十分ごろぼくの家にごうとうが入ったのでした。はん人は「さかロたもつ」でした。さかロはリーのくさりをといておきました。けいさつ犬がくるというので、リーを一時、いどのそばにつなぎました。三十分くらいしてリーがうるさくほえていました。朝の八時ごろ、けいさつけんがかえったので、リーをつれてこようとするとまえ足をひきづっていました。

まえあしもあと足も、どうたいぜんぶ、やけどしているので、びっくりしました。北村さんのおにいさんが来てリーの足、手、どうたいをあぶらで、しょうどくしてくれましたが、だめで、にくがだんだんとけて行きました。

りゅうさんをかけたのです。

はじめに前足、つぎにどうたい、あと足、にくやかわがとけて行くのを見ていると、かわいそうできもちがわるくなるから、ぼくは家に入りました。

リーをおいしゃにみせたら「にゅういんさせた方がいい。」といったので、リーをにゅういんさせた。一日たってリーはびょういんでいきをひきとった。それでよその犬を見るたびに、リーのことを思い出します。そしてまだ生きているような気がします。

ま

一

ぞうりぶくろ

九六一（昭和３６）年度

あさ、八時二十分ごろ　石川くんが、「おういい山本くん学校に行こう。」とさそいにきてくれました。

ぼくは「まだはやいよ　だからしょうぎでもしよう。」といいました。そして、しょうぎをはじめ　しばらくして、八時三十分になったのでしょうぎをやめて学校に行きました。

ぼくと石川くんがあるいているとき、ぼくはうっかりして　ぞうりぶくろを大きなどぶのなかにおとしてしまいました。ぼくはすぐカバンをおろしてぞうりぶくろをとろうとしましたが。でも、じぶんがおちそうなので、とるのをやめました。

学校について　べんきょうをしているとき、ぞうりぶくろのことをかんがえていました。

四時間めは大そうじでした。せんせいが、「くつしたの人はだしになりなさい。」と

いいました。ぼくはくつしたをぬいで、そうじをしました。その時も、ぞうりぶくろのことをかんがえていました。やっと、そうじがおわってつくえをさげました。そして、さようならをして、五年生のやきゅうをみてからかえりました。

うちへかえって、おかあさんに「ただいま」といいました。（あこまった。おかあさんにぞうりぶくろのことをいっちゃえばおこられちゃう。）とぼくはおもいました。おかあさんは「おねえちゃんのふけい会があるのできます。」といって、でかけてしまいました。

ぼくは、ひとりになりました。つまらないで、べんきょうをしました。こくごの本をだして、「ぶたの空中旅行」というのをよみました。

勉強が終わって、じてんしゃにのっているとき、おかあさんとおねえさんがかえってきました。ぼくは、とうとう　ぞうりぶくろのことをいってしまいました。

「おかあさん　ぼくは大きなどぶのなかに、ぞうりぶくろ、おとしちゃった。」といいました。おかあさんは、「しょうがないよ。またかってあげるからいいよ。」と、そういっていしゃにいきました。そして、夕がたになっておかあさんがかえってきました。

しばらくして、おかあさんが「ぞうりぶくろをかいにいくよ。」といいました。おかあさんは、すぐ顔や手をあらって、かがみをみて、おけしょうをしました。

ぞうりぶくろを、たちばなかんどうりまでかいにいきました。

一

「みんななかよし」を見て

毎週水曜日にやる「みんななかよし」は、とてもおもしろいです。

それは、かっちゃんが、やきゅうをして、ガラスをわって、にげていったり、さわいでよそのおじさんにおこられると、「ヤーイ。

かみなりおやじ。」とどなってにげていってしまいます。

それから、かっちゃんが、かぜをひいて、声が出なくなったので、かわいそうに思いました。でもみんななかよしは二十分ぐらいしかやらないので、もう少し長くしてくれればよいと思います。

みんななかよしの始まる前に歌をうたいます。小さい声でときどきいっしょに歌っている人もいます。

学校では二年生から、一学級に一台ずつテレビがはいりました。一年生は、はいっていないので、かわいそうに思います。でもそのうちテレビがはいるようになると思います。

家へかえってテレビのはいったことを話したら、お父さんとお母さんは、「よかったね」と、いいました。

# 一　九六三（昭和３８）年度

## ぼくとあんちゃん

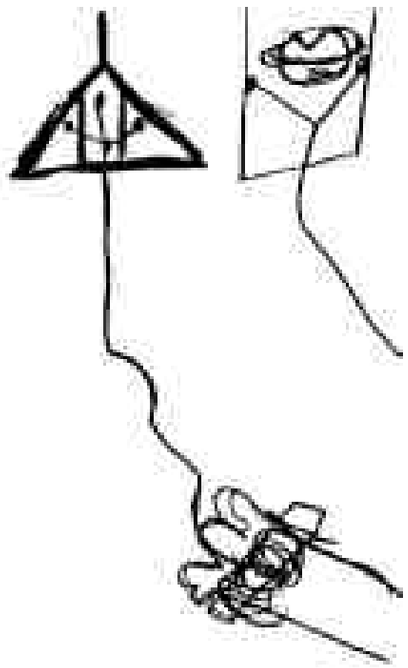
いつもぼくは、おにいちゃんのことを「あんちゃん。」といってしまう。おかあさんはお客さまがきて、ぼくが、おにいちゃんのことをよぶとき「あんちゃん」といったのでおかあさんがへんな顔をしました。ぼくはいけないおしました。おにいちゃんはてれていましたが、さっきへんな顔をしたのはおかあさんが、ぼくが、あんちゃんといったからだと思うが、ぼくは、あんちゃんっていったほうがいいやすいからあんちゃんといゆうとへんな顔をする。おかあさんはきらいになった、どうして「おにいちゃん。」といわなければいけないのだろうと思った。そのつぎの日のあさ、学校のようういをしていたら音楽の本がみつからないので「あんちゃんしらない。」ときいたらおかあさんが「またいった」というとぼくが「いけない」というから「やだ」というとね

えちゃんがわらった。

一九六四（昭和３９）年度

きょうだい

ぼくと、おとうとのけんじと、けんかをした。けんじがぼくをころがすと、ぼくは、たちあがってけんじをころがした。けんじが「いたいっ」といったら、がっこうでころがったところが、またちをだした。ぼくは、ほうたいをとってまいてやった。そして、ぼくが「またやるか」といったら、やるっていった。「よーしやろう。かかってこい。いくぞ」「あいてて」「だめだな。やめればいいのに、むりしたからまた、いたくなったんだよ。もうけんかはよして、なんかしてあそぼうよ。ロケットをとばそう」「いいよ」。



# 一

九六五（昭和４０）年度

わたしは、いまんでいる木下川の町を、つぎのようなりっぱな町にしたいと思います。まずあのくさいにおいです。ドブにふたをすれば、よいとおもいます。それに、いまの木下川には小さな木ぞうの家が、こみいって火じになりやすくこのあいだのような大火になるのです。それで火にもえにくいてっきんでつくられている家をたてます。このあいだの大火でそれがよくわかりました。木下川小学校もいまよりずっとりっぱにしてきもちよい学校にしてほしいとおもいます。道を歩いていると、ほうぼうにごみがおかれているのを見ます。あれもみんなでちゅういして、きれいな町にするとよいと思います。つぎにやってほしいのは、わたしたちのあそび場をつくってもらいたいのです。あそぶところはどこをみてもありません。じどうこうえんがほしいのです。こどもだけであそべるたのしいこうえんがほしいのです。木下川には、みどりの

木が少ないので木やいろいろくさ花をうえて町をきれいにします。えんとつもわるいがいのないものにしたいとおもいます。それから、としょかんやこうみんかんなども木下川にたてたいとおもいます。このような木下川になったらきっと明るいすみよい所になるでしょう。

一九六六（昭和４１）年度

おかあさん

ぼくが　夜おそくかえってくると

おこる。

ぼくは　なきそうになる。

ぼくが　べんきょうしている時

くすくすとわらう。

うれしくなってくる。

おつかいすると　ほめてくれる。

うれしくて　もっとおつかいしたくなる。

# 一

## 九六七（昭和４２）年度

### かぜとお正月

十二月三十日わたしはかぜをひいてしまった。

「ああ、あさってはお正月だというのに」わたしはじぶんでじぶんにいった。三十一日になっておねえさんたちはいばらぎへいくようをしていた。わたしはおねえさんたちをきしょうと、いおうと思ったでもわたしがいけないんだと自分にいいきかせた。おかってではおかあさんがおせち料理を作っている音がした。わたしはくやしくなってしまった。

お正月がきた。おねえさんたちがきものをきていた。でもわたしはかなしくてきものがきたくないと思った。おかあさんが、「きものをきせてあげよう」といった。わたしは、

「やだ」

といった。おかあさんはいってしまった。わたしはかなしいのをがまんしてきものをきた。

まもなくおかあさんがきて、

「きたのかい」

といった。わたしは、

「いいよ」といった。

おかあさんは、

「そんなきかたじゃだめだよ」

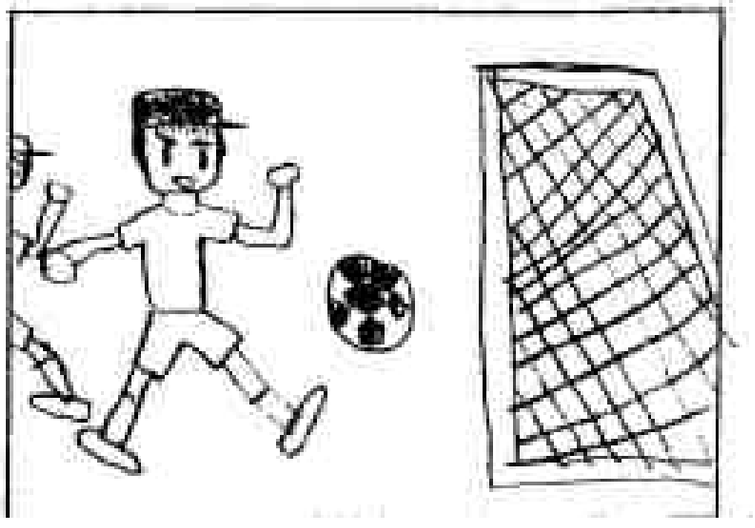
といってきせてくれた。あたまにかざりをつけていまへいった。わたしはかれた声で、

「あけましておめでとうございます」

といった。おひるすぎごろおとうさんたちはでていった。二日になっておかあさんが、

「なおったらデパートへつれていってあげるよ」

といった。



一九六八（昭和４３）年度

## テレビのたのしみ

ぼくは、テレビがすきだ。

朝おきればテレビ、ごはんをたべればテレビ。ぼくは、いつでもテレビだ。おかあさんは、ぼくがテレビをみていると、「にかいにいって勉強しなさい」という。ぼくは、やだなと思う。

ぼくは、そろばんへいってるから、ひるまは、テレビをみられない。そこで、さきに勉強するようにすると、あそべない。まだぼくは、子どもだからあそびとテレビがたのしみだ。おとなは、ひるまはたらいていて、よるになってあまりテレビをみられない。おとなははたらいているからよるになれば、一日じゅうのつかれがでてしまうから、つかれをとるのには、ねることしかない。ぼくもおとになればきっとそうなってしまう。だから子どもは、ちいさいころあそんだりテレビをみたりする。おとなになれば、あそべなくなる。

それにはたらかなければならない。ぼくは、だから子どものうち、うんとあそび、テレビをみることにしている。

テレビをみる時間をかくとぼくはふつう一日四時間みる。いちばんおおい時は五、六時間だ。その日は土曜日だ。家へかえってから、そとであそぶのがつまらないから、土曜ショウからみはじめて、メロドラマやマンガやクイズなどをみて十時はんごろまでおきてしまう。いちばんすくない時は二、三時間。その日は月曜日だ。テレビをみるのはたのしいけれどぼくは、いつもテレビや勉強のことであたまのなかがめちゃくちゃになってしまう。

## 一　家の犬

九六九（昭和４４）年度

家の犬は九月のはじめにどてでひろってきました。はじめのうちは歩かないですわってばかりいました。三日目の夜、犬に二郎と名前をつけました。犬ごやがないのでみかんの

はこの中にわらを入れておきました。

九月のおわりになると、ちゃんとたてるようになりました。おとうさんが首わをかってきてくれました。赤い首わで二郎に首わをはめてやるとすごくよろこびました。犬ごやも作りました。「さあ二郎の家だぞ。早く入ってみな。」とぼくがいってもみかんばこに入ってしまいます。十分ぐらいたってやっと入りました。クサリもおとうさんがかってくれました。二郎はぐんぐん大きくなりました。

夜はだいどころのいたの間に入れておきました。夜ねる時ふとんの中に入ると、二郎がトコトコきてぼくのかおをひっかいたので、ぼくも二郎の頭に一ぱつゲンコツをやりました。二郎はキャンとなくと、げんかんの方へいってとじこもってしまいました。つぎの朝おきると二郎は外にいました。学校からかえってくるととびかかってきてズボンをひっかきます。

日曜日の天気のいい日、二郎のからだをあ

らってあげました。おゆをわかしてせんざいをぶっかけて手でこすってあらいました。おゆがなくなったので水であらいました。二郎はつめたそうにたくさんなきました。からだをふいて日のあたる所においてもふるえています。

今ではもう一人前になったように、でっかい犬が家の前を通ると「キャンキャン」とないて犬をおっぱらいます。二郎は今でもかわいいです。

一九七〇（昭和４５）年度

うちのおとうと

ぼくの弟は生れて四ヶ月ぐらいしかならないのに、まるまるとふとっていて、目がまるくてかわいい子です。ぼくがあやすとケラケラ笑います。ほかの人でも同じように笑います。ぼくは早く弟が大きくなってあそべるようになればいいと思います。弟はきっとぼくのいいけんかあいてになると思います。ぼくよりつよくなるかもしれません。

# 一　きもの

一九七一（昭和４６）年度

私は、一日から三日ぐらいまできものをきました。おねえさんたちもきものをきました。私は黒い、色の中に赤い花もようのきものをきました。その時はとてもうれしかった。ぎんとしゅいろの一松もようのおびをしめてくれたりありたまはピンク色のリボンでゆってくれたりしたからとってもうれしかった。私は、きものがすきだったしあたまもゆうのもすきだからうれしかった。あと、おとしだまをもらってきんじょをてるみちゃんとよう子ちゃんとおまいりに行った。おまいりに行った時に今年はよくなりますようにっとたとんでべんきょうがよくできるようによくたのんだ。それがみのってくれるようにしたい。

一日西沢君にあって、西沢君が、野球をやっていました。西沢君のいもうとのとも子ちゃんがいておじさんといとこのよしみちゃんとも子ちゃんとバトミ

ントンをやっていました。私もやらせてもらいました。そのよしみちゃんは足が、なんかわるかったのでジャンプができないとしっているのに大きいのをだしていました。

それからみんながいなくなったのでかえりました。うちにかえって、てるみちゃんたちとバトミントンをして自分の家にかえりました。

一九七二（昭和４７）年度

たこ上げ

朝ごはんを食べてから、お父さんとぼくと弟でたこ上げに行きました。さいしょにお父さんが上げました。高くあがりました。弟が、「かして。」と言って、お父さんはたこをかしてあげました。そしたらたこがおっこちそうになってしまったのでお父さんが取り上げてしまいました。たこが高くあがり始めたので、また弟が、「かして。」と言いました。でもお

父さんはかしてあげませんでした。なぜたこをかしてあげなかったかと言うと、たこのほねをおったし、尻尾を切ったりするからかしてあげなかったんです。弟は泣いてしまってしょうがないからかしてあげました。弟は泣きやんでたこを上げました。高く上ってお父さんに、「うまい。」ってほめられました。こんどはぼくの番です。たこは高く上ったと思ったらおっこってしまいました。ぼくのことをお父さんが、「へた。」って言いました。ぼくはくやしくなりました。もっとたこを上げようと思ったんだけど、お父さんが、「帰る。」って言ったからうちに帰りました。

## 一

## 「犬」

九七三（昭和４８）年度

家の犬は、中国のペキニーズという犬です。家ではベネットと、いう名前をつけているので、ベーちゃんとよんでいます。

ベーちゃんは、だれかよその人が家に来ると、むきになって「ワンワン」と、ほえます。でもぼくたちが「ベーちゃん」と、おこると中にもぐってしまいます。お客さんが帰ってベーちゃんは、ほえるのをやめて、こたつの「ベーちゃん」と、よぶとすぐにこたつから出て来ます。

いつもはおとうさんがベーちゃんを運動させにさんぽにつれて行くけど、たまにぼくがつれて行く事もあります。さんぽの時のベーちゃんは、よろこんで走ります。家から木根川橋まで、行きは五分、帰りは四分ぐらいです。ぼくは、ベーちゃんに引っぱられるように後を走るので、くたびれてしまいます。

ベーちゃんは、さんぽから帰ると、家のすみのほうにつながれます。少し時間がたつと「アンアン」となきます。きっと外は寒いので家の中に入れてもらいたいのでしょう。

ぼくが、学校から帰って来ると、じゃれながら「ワンワン」とないて、出むかえます。

おかあさんはベーちゃんが家に来た時一ばんかわいがったので、ベーちゃんは、いつもおかあさんの所に行きます。おかあさんがおばあちゃんの方に行ってしまうと、ベーちゃんはおかあさんが来るまで、げんかんでまっています。

ベーちゃんの大こう物は、たまごです。卵の匂いがするとすぐそこに走って行きます。ベーちゃんはかわいい犬です。

# おつかい

一九七四（昭和４９）年度

ぼくが、夕方帰ってきたら、おかあさんが「おつかいにいってきて」と、いったら、ぼくは「いいよ」といいました。夕方なので急いで、工場から自転車を出しておつかいに行きました。

ぼくは、さいしょにコロッケやに行きました。そうしたら、コロッケやのおばさんが、「なににしますか…」といった。だからぼく

は「コロッケとハムをください」と、いったら、おばさんがかみにつつんでくれました。

つぎに、けいマーケットで、しょくパン、レモン、たまねぎをかごからだして、ふくろに入れてもらいました。

買い物が終って、自転車で帰りました。途中で、茶色の犬に会いました。だからぼくは犬に「ワン」と言ったら、犬はびっくりしてぼくのほうをふりむきました。やっと家について、工場に自転車をしまうと、家にはいって「ただいま」と言ったら、おかあさんが台所から「おかえりなさい」と言いました。台所に行くとおかあさんが「よく行ってこられたわね」と、ほめてくれました。

ぼくはおつかいがおわって、テレビを見ました。その時、おかあさんがふくろの中を見て「あら、これながねぎじゃあなくてたまねぎじゃあないの」と言いました。ぼくは「アッ」と思いました。ぼくは、ながねぎじゃあなくてたまねぎをかってきてしまいました。

でも、おかあさんは「でも行ってきてもらってよかったわ」と言ってくれました。

ぼくは学校でも落ちつきがないと先生や友達によくいわれますが、ほんとうだと思いました。これからは落ちついて、いろいろなことをやるようにしようと思いました。

一九七五（昭和５０）年度

三月十日（火）晴れ

とうとう日記七つ目。さすがにうれしくなって、毎日書いたかいがあったなあと思った。日記を書かないと気がすまない気持ちになるのだ。これからもがんばろうと思った。

理科の時間、さくらやさつきなど、もうつぼみが出来てる花のことを勉強した。そしてもうすぐ春なんだなあと思った。

一九七六（昭和５１）年度

二月八日（火）　晴

学校に、ぼくのなわとびがないから、家から、お金を百五十円もらって、大つかで、買ったら百二十円で三十円おつりでした。その三十円で鉛筆を買った。こんどはおつりがなかった。

ぼくは、算数をやってるみたいだった。

一九七七（昭和５２）年度

一月十八日

朝、目がさめた時、どうも寒いと思ったら、こな雪がふっていた。やねに五センチくらいつもっていた。お母さんが雪をせんめんきにとってきてくれた。大きいおだんごをつくったら、手が氷のようになってしまった。

一

一九七八（昭和５３）年度

一月二十八日

おとといからの大阪の三びし銀行北畠支店のごうとう人じち事件が、今日の四時三十分ごろ、はん人がしゃさつされてかいけつした。ニュースだと、きゅうきゅう車が十何台もきていた。こんなにきゅうきゅう車を、どうやってあつめたのかな。はん人の梅川昭美はたいほされるのをわかってやるんだから、バカじゃないのかな。

一

一九七九（昭和５４）年度

十二月四日

ぼくはほそいくんと、むうくんとよしお君とのぼる君と、みのるくんとけんじ君みんなでてうちをやりました。さいしょにむう君がうちました。一るいに行きました。そのつぎにぼくがうちました。そのボールはかみなりのようにとんでいきました。ぼくはいそいで一るいへ二るいへ二るいへ、とんで行きました。とてもうれしかった。

# 一

## 九八一（昭和５６）年度

### 九月二十日

一時ごろ学校の校庭かいほうで、よご沢先生と野球をやった。池田君と吉田君とやった。吉田君とよご沢先生がくんで、ぼくと池田君がくんだ。池田君がホームランをうった。ぼくがスリーベースヒットをうった。よご沢先生たちのかいになった。よご沢先生のフライをとって次に吉田君のフライをとって、また、よご沢先生をアウトにした。点数は、わからないくらいに入った。その日は、とてもおもしろかった。

## 一

わたしのうまれたとき

お父さんが、「さいしょに生まれてくるのは男の子が生まれたらいいなあ。」と言っていたということです。そしたら女の子の私が生まれたのでがっかりしたそうです。でもお父

さんが、かわいい赤ちゃんが生まれたからよくってとてもうれしかったそうです。お母さんは、「これから大へんだなあ。」といっていたそうです。

私の名前を考えたのはおばあちゃんが、「麻美と言う名前がいいんじゃないの。」といって意味もなしでつけたそうです。

私はだんだんお父さんに、にてきました。私はお父さんに、にているとは思ってもいませんでした。お父さんが、私は、「今より小さい時の方が、かわいかったよ。今はかわいくないよ。」といっていました。にくらしい。

一九八二（昭和５７）年度

二月二十一日（月）

二、三日前から、金ぎょのチーコが大きなおなかをしているので、さいしょは、えさのたべすぎじゃないかと思っていたけど、お父さんが「たまごをうむのじゃないかな。」と言

うと、お母さんが、「春でないから、たまごはうまないと思う。」と、みんなでいろいろ考えたけど、きっと赤ちゃんを生むんだと、いけんがまとまりました。ぼくは、べんぴで、「ふん」が、つまっているのかと思ったけど、お父さんとお母さんが、「たまごだ、もをいれて、はやく元気な赤ちゃんを生みなさい。」などと、まい日言っているので、べんぴではないかとは、ぼくは言えませんでした。でも、ほんとうは、たまごならうれしいと思います。

今、ぼくのうちではいちばんの人気ものの、チーコです。

一

八月二日（火）　九八三（昭和５８）年度

おとなりから帰って家に入ろうとしたら、家の前のものほしのところに、くもが、くものすをつくっていました。くもがすをつくるとき糸をはるのに、じゅんばんがあるとはしりませんでした。さいしょに、たてをはって

から、まわるくはっていきます。そして、いちばんさいごのまるをくもが歩きながら、糸が切れてないかてんけんしていました。くもが糸をはりおわるまでの時間は、だいたい十分くらいです。わたしはくもをえらいなあーと思いました。それは、さいごのてんけんをしんけんにやっていたからです。

一九八四（昭和５９）年度

１２月５日（水）

今日、河端君と、合君とあじさい公園で、落としあなを作りました。できたら、２年のふじ川君と、ときた君と、市田君と、北川君と、よっちゃんがきました。ふじ川君を、河端君とぼくと合で、落としあなに近づけて、ぼくたちで、「ここまっすぐ、いってみん」と言いました。そしたら、ふじ川君は何も知らないで、落としあなに落ちました。あさい

落としあなだったから、ふじ川君は、わらいながら「なんだよう」と、言いながらわらっていました。次に、みんなで、サッカーをしました。河端君とぼくでとりをしました。

一

一九八五（昭和６０）年度

一月三日（金）

今日は、あぶくま川に白鳥を見に、おじさんの車で行きました。白鳥だけじゃなくてかもも いました。かも と白鳥にえさをあげていたらテレビ局の人がきて、白鳥をとったり、インタビューをしたりしていました。帰る時、おじさんがわたしと妹に人形を、弟にロボットを買ってくれました。ハンバーガーも買ってくれることになりました。おじさんが「ハンバーガー三つください。」といったら店員さんが「ライスをつけますか。」と聞きました。わたしはへんだなと思いました。おじさんは「いりません。」と答えました。しばらくたって、車の中で開けてみたら、ハンバーグでし

た。あとの二つもハンバーグでした。わたしはハンバーガーの「ガ」と、ハンバーグの「グ」を店員さんがまちがえたんだなと思いました。

一

十二月二十六日（金）

朝、ぼくがファミコンをやっていたら、まもる君が来ました。そして、まもる君が、

「カセットをかしてくれ。」と言ったけど、ぼくは、「だめだよ。」と言いました。でもまもる君は、ねばりにねばりました。ぼくは、しようがないからキングスナイトと言うカセットをかしてあげました。そして、ぼくは、

「もう、二度とくるなよ。」と、まもる君に言い聞かせました。そしたら、まもる君は、何も言わず帰ってしまいました。ぼくは、「ちょっとまてよ。」と言おうと思ったけど、やめました。なぜかと言うと、まもる君はもういなかったからです。

一

九八七（昭和６２）年度

七月二六日（日）

きょう、花火をやった。おもしろい花火がいっぱいあった。わたしは、おとうさんに、おせんこで、ロケット花火をやってもらった。おもしろかった。

こうもり花火はこわかった。うちあげ花火はきれいだった。ぼうの花火は、おもしろかった。ねずみ花火はあとをついてきた。花火は、おとながついていないとあぶないけれど、花火は、とってもきれいなもの。もしかしたら、ずっと、つかわなかったらしけていたんだなあと思いました。

一

九八八（昭和６３）年度

五月四日（水）

きのう、魚つりに行った。いっぱいとれなかった。さいしょに大きいのが一ぴき取れたけど、ぼくがこけてこぼして、みんなにげら

れた。あとから大きいのが二ひきとれた。北川くんもきていて、川におっこって「たすけて。」ていった。「足がつくよ。」ていって「どっこいしょっ。」ていって上がってきました。おもしろかったです。

六月二十八日（水）

一九八九（平成１）年度

先生は、子どものときなにになりたかったんですか。ぼくは、サッカーのせんしゅになりたいです。夜になってきゅうにおふろからでて「サッカーをやめたい。」といったらおかあさんが「やめればふざけていいました。「れんしゅうばかりで少しあきたから。」といったらお母さんは、「そんなこんじょうのないことじゃだめだよ。べんきょうも、スポーツもまい日のつみかさねが大事なのよ。いっしょうけんめいがんばればいいけっかがでてあとになってがんばっ

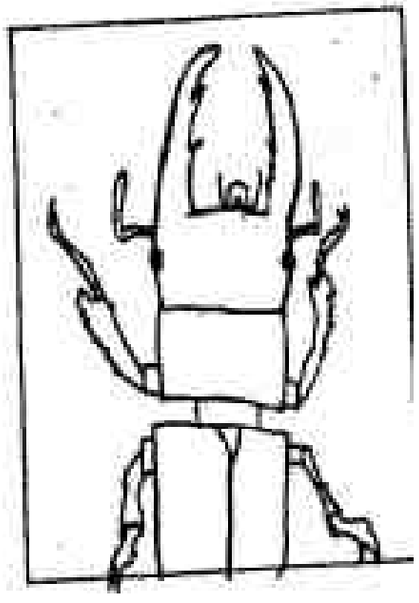
てよかったなあと思えるよ。」といわれてしまいました。ぼくはべんきょうもサッカーも、つまらないときもあるけど、いっしょうけんめいがんばりたいと思いました。

一月十一日（土）

一九九〇（平成２）年度

今日、５時２０分に、学校の前のバスていからバスにのって、上野の、国立はく物かんに行きました。さい初、木星を見ました。木星は、丸くて、しましまになっていました。木星の下に３つ、上に１つ、人工えい星が見えました。ぼくは、いつかもっとちかくで、見たいと思いました。つぎに、火星は、赤っぽいオレンジでした。つぎに、月を見ました。表面は、火山のような穴がいっぱいあったから、お母さんにきいたら、クレーターというんだよとこたえてくれました。ぼくは、まだ小さいころに、ほんとうに月にうさぎがいる

のかと思っていました。ぼくは、月にいってみたいなと思いました。そしてアンドロメダ大星雲とか、生まれたばかりの、星とかいろんな星をみました。生まれたばかりの星というのは、人間にすれば、一週間ぐらいたったものでは、星にとっては、十年もたっているそうです。



おこりじぞうの話を聞いて

一九九一（平成３）年度

せんそうって、口で言っただけではかんたんだけどじっさいにやったらこわいんだなと思いました。せんそうのあった日に生まれてきた人ってかわいそうだな。だって、食べ物はちょっとしか食べられないし、すぐ死んじゃうんだから、うんがわるいんだな。何日もやって終ったんだから、水・食べ物・家・人などぜんぶ火できえてしまったんだな。

なんでせんそうなんてはじまったんだろう。かんけいのない人や赤ちゃんがいるんだから、手紙をだしてからにしてほしいと思いました。

一月二十三日（土）　一九九二（平成４）年度

今日は、私のおたん生日の日なので歩美ちゃんと、弘美ちゃんと桜ちゃんが私の家に、来ました。歩美ちゃんからは、おさるのもんきちのマグカップでした。弘美ちゃんからは、ケロッピの落書き帳とおり紙と、消しごむとえん筆とミニティッシュでした。桜ちゃんからは、赤いハンカチとぶどうのにおい玉と木で、できたハート形のブローチと、ねこの手の形の消しごむでした。五時前におばちゃんと二人で、あさくさまで私のおたん生日プレゼントを、買いに行きました。せと物の人形が、きれいにならんでいました。私はシェパードもコリーも、羊も馬も牛もポメラニアン

もシベリアンハスキーも全部ほしかったです。でもおばちゃんが、うさぎもあらいぐももアヒルもかわいいので、買ってくれました。うれしかったです。

皮工場に行ったことは一九九三（平成５）年度

十月二十六日（火）

皮工場のしごとは、むずかしそうでした。行く前、ちょっとどきどきしました。ついたら、電話中だったので、五分ぐらいまっていたら、やさしそうなおじさんがでてきました。はじめに、

「一日に、千二百まいのかわができる。」

と、おじさんが言いました。わたしは、すごいなあと思いました。おじさんが、

「きかいで、あぶらをとる。とったあぶらは、インスタントラーメンのあぶらになります。」

と言いました。うそと思いました。

つぎの部屋は、皮をうすくする部屋でした。つぎはかいだんをのぼって、シェービングマシンという言いにくい名前のきかいがありました。二台ありました。

そして、おじさんの話が終わるとしつもんをしました。五番目にわたしが言うとやっぱりわからなそうにうなずきました。やっぱり、むずかしいんだね。

阪神大しん災

一九九四（平成６）年度

一月二十八日（土）

一月十七日に、関西地方に、大きな地しんがありました。その日、朝おきてテレビを見たら、地しんのニュースをやっていました。

しん度７のげきしんは関東大しん災の地しんと同じくらいでした。この地しんは、阪神大しん災という名前になりました。こんな地しんは、はじめてでした。もしまたこんな地

しんがきたら、どうしたらいいか、わからなくなると思いました。関西地方の人達は、食料や電気もつかなくて、すごい数の家がなくなってしまいました。ぼくは、とてもかわいそうだなぁと思いました。地しんの次は、大火事でした。この火事は、いっぱい家がもえました。大きい地しんだけじゃなくても、しん度3や2の地しんもありました。

お父さんが

「この地しんは、東京にもくるかもしれない。」

と、いいました。ぼくは、地しんはいつくるかわからないから、注意してようと思いました。

さつきちゃんと遊んだこと

5月6日（土）　一九九五（平成7）年度

家に帰って、上ばきを洗っていると、さつ

きちゃんから電話がありました。

たん生日の日で遊べなかったんだけど、

「やっぱ、遊ぼ。」と言ったので、わたしは、

「うん。いいよ。上ばきをあらってから行くね。」と言って切りました。

それから、上ばきを洗って、新聞がないので、外に出してから行きました。そしてから、さつきちゃんのお父さんとさつきちゃんが階だんのところにいて、さつきちゃんは、先生からもらった、シャボン玉を、やっていました。だから、わたしも、シャボン玉を持って行ったから、いっしょにやりました。はじめは、ふつうにとばしていました。その次に、シャボン玉をわりました。こんどは、「自転車で、シャボン玉をやろう。」と言って私が、わたしがさつきちゃんのシャボン玉をもっていたらさつきちゃんのシャボン玉を、こぼしてしまいました。すぐ、私はさつきちゃんにあやまったら、「いいよ。」と言ってゆるしてくれました。よかったです。

ぼくは、お父さん一九九六（平成８）年度こうばのしごとをしたとおじいさんとおんなじです。

なぜかというと、きょうりゅうみたいでつよそうなきかいがこあるからです。ぼくは大きくなったら、きかいをふんでみたいです。それで、大きいしなものを、はこんでみたいです。それで、いっしょうけんめいやって、しなものができたら、お父さんをよろこばせたいです。休み時間になったら、お父さんとぼくでごはんをたべたいです。

ぼくは、いっしょうけんめいやりたいと思っています。

ネコが学校にやってきた

一九九七（平成９）年度六月二十日

「ニャー」と言う声がする。まわりを見るとネコがいた。そのネコが鶏にっつつかれて

いる。光瑠ちゃんはネコを助けた。そして、光瑠ちゃんは学校に来た。そして、すぐに集会に行って帰って来て、みんなはネコのことを話し合った。未来くんがこう言った。「また同じ場所に置いてくれれば。」「また鵜につつかれるじゃない。」と光瑠ちゃんは言う。家で飼おうとしても、家の人は、多分だめだと思う。けっきょく、みんなの家でもネコは飼えなかった。次の日、みんなで校長先生に「学校でネコを飼ってもいいですか。」と聞きにいきました。校長先生は、考えながら「自分たちで世話をするんだったら。」と言いました。そして、しゅじさんがネコに小屋を作ってくれました。ぼくたちは、ネコの名まえきめました。それはトラです。次の日、小屋をあけて見ると。トラが元気よくでてきました。今トラは、たんにんのかりべ先生のうちで飼われています。はじめトラを飼った人は、トラをすてたから、ころしたもとうぜんでした。

一九九八（平成１０）年度

カイコがかわいそう

私は、『カイコ、まゆからまゆまで』という本で、カイコはさなぎになるとゆでることを知りました。私はいやになりました。せっかく育てたのにゆでたら死んでしまうからです。

でも、クラスの何人かの人は、『ゆでたほうがいい』と言います。

私は、まだ成虫になるまでの命があるのにゆでるから、私たちが大人になれないようにかんじます。だって、たとえばメスならあいてがいたら、たまごを産むことができるから、死なない方がいいと思います。だから、ゆでないでください。

わくわくしてたのに、さなぎになってなんで「ゆでるほうがいい」と言うのですか？！ゆでた方がいいと思った人は、くわしく目的を言ってください。ゆでた方がいいだけではわかりません！

私はカイコが成虫になるようすを見たいし、命があるかぎり楽しくすごしてほしいからです。

## 一　九九九（平成１１）年度

### 皮かく工場の見学

牧野さんの皮革工場を見学に行きました。そこで、はじめて皮の仕事はきけんなことを知りました。げんぴがあったので、少しさわったら、毛がかたく、油がのってぬるぬるしていました。水しぼりをしている皮とぬれている皮をさわったら、二まいともぬれているけれど、水しぼりをした皮の方が少しかわいていました。ネットばりを見て、おじさんや、おばさんが、あまりにものスピードでやっているので、ぼくはおどろきました。なにか、おもしろそうなので、ぼくもやってみたいと思いました。

教室でネットばりをやってみました。ネッ

トばりは水しぼりよりかんたんだったけど、いっしょに組んだ水野君とあわなかったので、ざんねんでした。でも、うまくできてよかったです。工場では夏は三十八度にもなるなんてびっくりしました。ぼくなんか三十分もいたらたおれてしまいます。おじさんたちはりっぱだと思います。

二〇〇〇（平成１２）年度

十二月二十三日（土）

ぼくたちは、博物館に行きました。入ってすぐ目の前に恐竜の骨がありました。あんないしてくれる人が、「後ろにあるティラノサウルスの骨はにせ物、本物は、外国にあるんだよ。そして前にあるゴルゴサウルスの骨は本物だよ。」と言ってくれました。

次に右へ行ったら、動物の進化を見ました。さるから人になるというのを見て、さるにも

そんなしゅるいがあるんだと思いました。次に、二階に行きました。次も動物の進化でした。そこでは恐竜時代のものから、どんどん進化して人になるんだよというのが、わかる所です。そして三階には、ハエのしゅるいがあります。そしてコオロギの鳴き声を聞いたりしました。そしてたんけん広場に行きました。イノシシのしっぽにさわりました。固い毛があって、下にやわらかい毛があることがわかりました。本も読みました。豚の食べ物がわかりました。

六月八日

今日藤田先生が家庭ほうもんで来ました。ぼくはお母さんと先生が話をしているとき、ちゃんと勉強できたらいいな、と思いました。漢字を一番おぼえたいと思いました。テレビや歌を歌いながら宿題をやらないようにしたくなりました。これからはわすれものをなる

二〇〇一（平成１３）年度

べくしないように、習字ができるようになりたいです。先生やお母さんの言うことをまもって、カッとなって悪口を言わないようにして、やさしい人になりたいです。

二〇〇二（平成１４）年度

ぼくのフィリピン日記

いえにいたこと（四月二十三日）

きのう、いえでしゅくだいをやりました。キリンキリンという音がしたので、ぼくがいってみたら、アイスクリームを食べたのでおいしかったです。

セブとうで（五月十三日〜五月十七日）

きょうは、かぞくと四人と、おばあちゃんと、いとこの女の子で、セブとうに行きました。セブとうは、お母さんのいなかで、とってもうみがきれいでした。セブとうには、きれいな魚がいっぱいいて、パンをあげると、手のところに、魚があつまってきて、とってもおもしろかったです。きょう、あさからうみに

行って、すなあそび、貝ひろい、水あそびを夕方までずっとうみであそんでいました。

きょうは、セブとうから、おひるごろにかえってきて、おとうとのゆうきのたん生日ケーキをかって、いえにもどりました。とっても大きなケーキで、夜にゆうきの三才のたん生日パーティーを、わせて十八人でしました。

フィリピンさいごの日（五月十八日）

きょうは、あさからちかくのデパートに、かいものに行きました。おみやげ、いえで食べる肉や、くだものや、のみものなど、もちきれないほど、かいました。おひるは、デパートの地下で、ピザ、からあげステーキなど食べておなかいっぱいになって、かえりました。